

映像制作実習

大隈記念講堂
入場無料

作

Film screening

品

2026. 01. 24 sat.

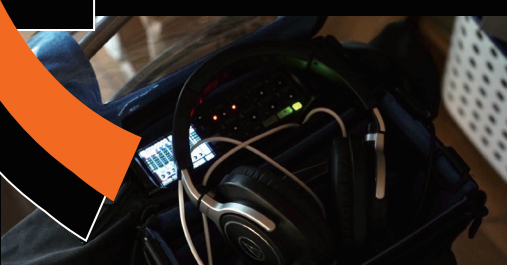
OPEN 12:30

START 13:00

上

映

会



早稲田大学
GEC・基幹理工学部 全学副専攻「映画・映像」
映像制作実習 作品上映会
大隈記念講堂
入場無料

タイムテーブル

12:30	開場
13:00	開演
13:20	『おむかえ』 『たねび』
14:20	キャスト舞台挨拶 講師陣・監督トーク
15:00	休憩
15:15	『透明なサクラ』 『ぎっちょんちゃん』
16:10	キャスト舞台挨拶 講師陣・監督トーク
16:50	終演

※タイムテーブルは変更になる可能性があります

私たちは

授業「映像制作実習」は、是枝裕和氏、篠崎誠氏、土田環氏、高木創氏をはじめとする映画のプロフェッショナルの指導のもと企画立案から撮影、上映会の運営までを学生が主体的に行う、演習形式の講義です。

本授業が芸術大学や映画専門学校の講義と大きく異なる点は、受講生の大半がそれまで映画をつくった経験のない学生、または普段映画とは別のことを専門的に学んでいる学生ということです。

第一に目指しているのは傑作を撮ることではなく、むしろ映画づくりという共同作業を通じて、学生がそれぞれに学ぶことにあります。“さまざまなバックグラウンドのある学生が集まって、共に映画を完成させることの難しさ、面白さを学ぶ”というプロセスを私たちは大切にしています。

これからも「映像制作実習」は、映画づくりを通した表現・共同作業の学びの場として、また映画への新たな関心につながる上映会の開催を目標として、活動を続けていきます。

SNS & HP

@wasedamovie2025 @wasedamovie2025 HP <https://www.waseda-movie.com/>

作品一覧



『おむかえ』
5歳のハナは両親の離婚を機に、母・洋子と新しい生活を始め、夜間保育園に通うことになる。友だちと離れた寂しさや慣れない環境に戸惑うハナ。一方で洋子も働くために娘を預ける苦しさを抱えていた。静けさに耳を澄ましながら、孤独な夜をひとり過ごす小さな心の揺れをそと映す一夜の物語。

【出演】風紗 真織
【監督・脚本】三宅美和子
【スタッフ】伊藤英哉 勝村颯斗 國吉敏太郎 佐竹英 佐内優月 高橋さくら 高松知晴 中嶋悠太 新妻野々香 西村太一 バットハディジャ 宮塚俊太郎



『たねび』
中学2年生、冬休み。元消防士の父と、火に惹かれ始めた弟。自然に囲まれた町で二人と暮らしている楓。平穏な日常は静かに燃える“たねび”のように、段々と変わっていく。畏怖と憧憬。火に翻弄される家族を幻想的なタッチで描いた物語。

【出演】玲旺菜 小林流維 鈴木士 飯田晴音
【監督・脚本】坪内さくら
【スタッフ】石井優里奈 柏崎光音 黒見明香 近藤愛音 笹樹晴比 谷佳樹 土屋壮太 ファウツン 山本征範



『透明なサクラ』
母親の言う通りに進路を決めてきた大学生の深山結。彼女の仕事は「サクラバイト」-依頼人の希望通りに“存在しない人間”を演じることだった。結とはある依頼で同世代の女の子の葬儀に参列すること。依頼主である母親が思い描く、「友達」を演じるにつれ、母の期待に合わせて自分を押し殺してきた記憶が重なり…。

【出演】梶山里奈 牧村祐和 せいのゆみ 高宮沙也花
【監督・脚本】浅田玲子
【スタッフ】浅井快斗 大川雄太郎 大西美嘉 久保誠也 齋藤風太 清水立 杉山翔羽 土肥達生 日高真優 森岡希帆 吉井菜緒



『ぎっちょんちゃん』
コロナの影が広がりが始めた2020年2月。小学5年生の結良は、卒業式の合唱を楽しみにしていた。しかし父が中国在住という理由で家に張り紙が貼られてしまう。神経質になる母と、歌を避ける想真。結良は、変わっていく周囲についていけない。全国一斉休校が告げられるなか、結良はどんな卒業式を迎えるのか。

【出演】YUNO 西野美佑 ゆう 生田有我 堀内流星 春園幸宏 黒木実弥
【監督・脚本】野呂田寧々
【スタッフ】有坂祐希 紙村真生 曾根原和奏 富澤そら乃 中川芹香 長嶋咲紀 橋本留加 藤澤新 堀池考平 山本祥太 米倉誠士

講師コメント

是枝裕和

今年も上映会の季節がやって来しました。毎年話していることですが、この「映像制作実習」という授業は、作品の完成度を競い合うことを目的としたものではありません。制作のプロセスを通して、多くの人と関わる。それは撮影現場のスタッフ、キャストに限りません。授業の趣旨に協賛してくれた方、そして本日上映に参加してくれた方も含め、多くの方に支えられて映画は出来上がっていくということを身を持って知ることが、一番の目的です。とはいえ、出来上がった作品は学生たちの一年分の血と汗の結晶なので、どうか、厳しく優しい眼で観てあげて下さい。

土田環

理系や文系、映画とは異なる専門を持つ多様な学生たちが集う「映像制作実習」の大きな価値は、共同で一つの表現を成立させるという困難なプロセスにあります。自分のアイデアを他者と共有し、互いの視点や価値観を衝突させ、創造性をぶつけ合う対話を繰り返すことで、作品は初めて「表現」として成立します。単なる技術習得を超え、人と協力する難しさや大切さを痛感し、粘り抜いたこの経験こそが、参加をした学生それぞれの将来において、必要とされる人間としての底力、確かな力となってゆく我们相信しています。

篠崎誠

気づけば映像制作実習の発表の日が。度重なるプレゼン地獄を潜り抜け、学生たち自身の投票で選ばれた四つの企画。自身の企画の芯の面白さがわからずに脚本で混迷を極める者もいれば脚本はスムーズにできたと思いきや映像化の段階で再び芯の面白さを掘り損ねて仿徨う者も。でもそういうものです。聞く耳を持たないとダメだが、言われた通りにしか直せないのも…。混迷のなかで仲間たちとの共闘によって何かを掴むしかありません。

高木創

大学生時代に先生に頭を叩かれた事がある。馬鹿にしたのだと思う。同じ頃、先輩の舞台音響の手伝いで叱られまくって、後ろで見てる状況になり逃げた。同じ頃、学習教材の訪問販売のバイトを1日で嫌になって逃げた。同じ頃、以下同。繰り返すまいと意識しつつ、しかし未経験への挑戦が続けば失敗は尽きない。成功体験は山の頂の様なもので、そこに至るまでの努力には失敗が多く含まれる。それも踏みしめる一歩と思えば氣も楽になろう。頂に立てば次の峰が見えてくる。

協賛

株式会社 AOI Pro. / 株式会社アミューズクリエイティブスタジオ / ギャガ株式会社 / テレコムスタッフ株式会社 / 株式会社分福 / 株式会社ロボット / (50音順)



協力

菊地健雄 / 四宮秀俊 / 株式会社フジテレビジョン / 早稲田松竹映画劇場 / 「早稲田大学映像制作実習」08・09の皆さま / (50音順)